

宇宙開発の歴史

山川一人

最近、国際宇宙ステーション、火星探査などのニュースをよく目にするようになった。

人類の宇宙開発の歴史をたどっていくと、十九世紀に書かれたジュール・ベルヌのSF小説『月世界旅行』が最初のものだろう。

実際に宇宙開発の始まりと言っているのは、一九〇三年にロシアのアマチュア科学者コンスタンチン・E・ツイオルコフスキーが提唱した液体燃料型多段式ロケットだ。ツイオルコフスキーは、ほかにも人工衛星、惑星への植民などの宇宙開発の基礎技術を提言している。

宇宙開発を実現させたのは、アメリカ人ロバート・ゴダードで、ゴダードは一九二六年に液体燃料によるロケット打ち上げを成功させている。ただ、「ネル」と呼ばれたゴダードのロケットはサイズは人間の腕

程度で、二・五秒間に十二メートルほどの高さまで行って墜落。当時はマスメディアに酷評を浴びたが、現在では液体燃料推進の可能性を実証した重要なものだったとされている。

ドイツは、一九二九年ヴェルナー・フオン・ブラウンを中心にロケット兵器の開発に着手し、第二次世界大戦下の四二年に液体燃料を使ったロケット兵器の開発に成功している。

四二年に打ち上げられたドイツのロケットはA—4ロケットと名づけられ、人類が初めて宇宙空間に到達させた人工物体となった。

四三年、ドイツはA—4ロケットをV—2ロケットと名前を変え、射程距離三〇〇キロ、弾頭の重さは1トンという兵器として大量生産。ドイツ軍は数千発をイギリスなど連合国側の国土に打ち込み、多くの犠牲者を生み出した。

宇宙開発の不幸な側面である。
以下、略。